

高信頼性ICタグ

超耐熱ICタグで利用分野を広げる

通常のICタグでは、200℃から250℃が耐熱の限界です。それ以上の耐熱性が必要な場合、ICタグに熱が伝わらないような工夫をすることがよく行われます。ただし、実装構造が複雑になったり、長時間の耐熱性をもたせるのは困難となります。

(株)R&Vがご提供する耐熱温度のICタグは構造が従来と異なります。ICチップのメモリは温度が500℃になっても情報が消えることはありません。また、チップとアンテナの接続は熱によってダメージがない方法を採用しています。アンテナは強固なステンレス材です。有機系の材料は一切使用していません。

ICタグはこれからプラント管理をはじめとするあらゆる工業分野にどんどん進出していきます。長期に渡って過酷な現場でご使用いただくために超耐熱ICタグは絶対に必要であるという考え方で開発をしています。

ICタグを使うためには、リーダという装置が必要になります。(株)R&Vは遠方のICタグを現場のニーズに合わせて読み取る装置も合わせて開発しています。これからも、安心してお客様がICタグをご使用できますように全力で対応して参ります。